集落活動センターの概要について







高知県

集落活動センターの取り組みに至る経緯

人口減少と高齢化の進行

H23 県集落調査

- ・地域づくりや産業の担い手不足、リーダー不足
- ・これまで大切に守ってきた伝統行事等のコニュニティ活動の衰退
- ・一人暮らしによる健康面での不安
- ・生活を維持していくための環境悪化(生活物資、移動手段の確保等)
- ・基幹産業である第一次産業の衰退→現金収入の減少

その結果

地域活動の課題

- ○地域活動が存続できない、衰退している
- 〇役職が重複し、1人が何役もの役職に就かなければならない
- 〇役員になり手がいない。また、将来の活動を担う若者がいない。

今後、地域に住み続け、地域活動を維持していくためには、

地域同士、団体同士、更には行政と住民、民間が連携し、地域一体となって取り組む __ことにより、それぞれの活動を効率かつ機能的に行うことができる新しい仕組みが必要。

1

<集落調査について>

集落 状況

生活

産 業

地域の実態、

地域の方々

が直面している課題

落

調

査

(平成23年度)

■将来、篳落を維持できない

集落が10年後に消滅している、衰退している・・・75.1%

▶ 集落での共同作業やコミュニティ活動が継続できない、 又は衰退し ている

- ・今後の集落の共同作業等が維持できない、わからない・・・66.9%
- ●人材の確保ができない

·リーダーがいない···25.8% ・後継者がいない・・・36.8%



●日常生活に欠かせない生活物資の確保することが難しい

・生活用品の確保で困っている、課題がある・・・63.1%

●病院や役場などへの移動手段が確保できない

60歳以上で運転していない人・・40%・移動手段がない又は不便・・17.7%

- ●飲料水の確保することが困難になっている
 - ・集落等で管理する施設を使用・・・40.9%・施設維持が課題・・・52.7%



生活環境の悪化

●農林漁業の不振

- 集落の基幹産業が衰退・・85.2% - 産業振興に繋がる資源がない・・72.1%

●基幹産業の後継者がいない

集落の主となる産業の後継者がいない、わからない・・・77.1%

- ●耕作放棄地、手入れをしていない山林の増加している
 - 耕作放棄地がある・・65.0%・手入れされていない山林がある・・69.4%
- ●野生鳥獣による被害の増加
 - ・野生鳥獣による農林被害を受けている・・・94.3%





<u>していくことが困難になっている実態が浮き</u>

集落活動センターとは、どんなもの?

地域住民が主体となって、旧小学校や集会所等を拠点に、地域外の人材等を 活用しながら、近隣の集落や各団体・グループとの連携を図り、生活、福祉、 産業、防災などの活動について、<u>それぞれの地域の課題やニーズに応じて総合</u> 的に、地域ぐるみで取り組む仕組み

平成24年度より取り組み開始

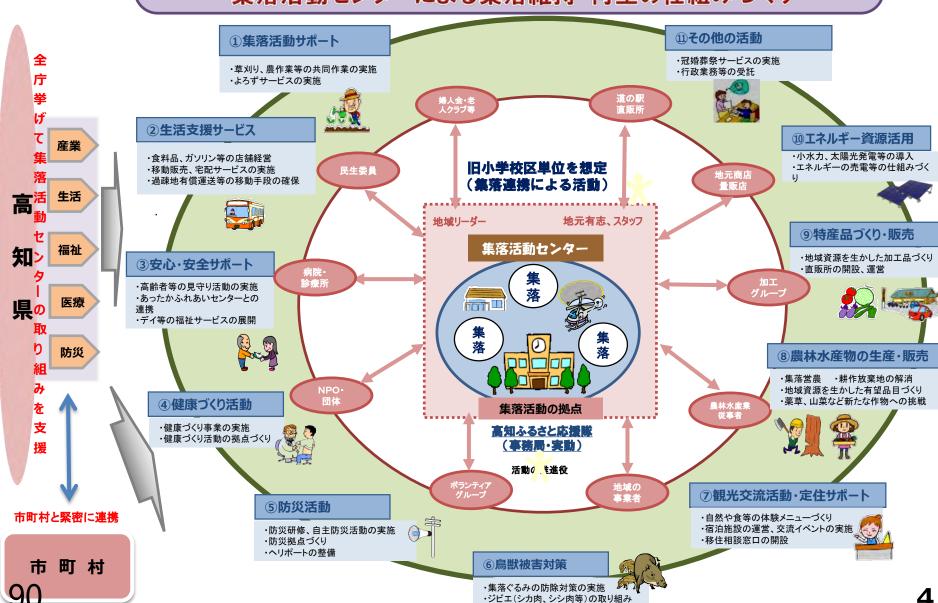
「集落(地域)の維持、再生」に向け、<u>地域の活性化</u>や<u>支え合い</u> の体制づくり、連携づくり、システムづくり</u>に取り組むもの

- 単なる機能の集約化や、施設整備といった、ハード的な取り組みではない。
- ・拠点となる施設を中心にして、住民力を生かした、新たな官・民・地域協働による、産業づくりや、福祉、生活サービス提供の仕組みづくりを目指す。

集落活動センターの拠点づくりは、あくまでも「手段」であり、集落 を維持・再生するための仕組みを作りあげることが真の目的」!!

<集落活動センターのイメージ>

集落活動センターによる集落維持・再生の仕組みづくり



集落活動センターの特徴は!!

①拠点をつくる

- ・廃校や集会所などを活用して、住民同士が集い、交流するなど、様々な活動を実践する地域の 活動拠点や、交通の連結点や福祉などの生活サービスの拠点となる場所をつくる。
 - ⇒暮らしを守る心の拠り所、未来を拓く希望の拠点

②主役は、地域の住民の皆様

- ・行政主導ではなく、住民自らが主体となって、それぞれの取り組みを進める。
 - ⇒行政はサポート役に徹する(放り任せでなく、しっかりと見守る)

③活動は地域のオーダーメイド

- ・地域の抱える課題を解決したり、住民の思いや、やりたいことを実現するため、住民の発意、アイデア、提案を、実際の取り組みに繋げる「オーダーメイド」により、取り組みを進める。
 - ⇒それぞれの集落活動センターで取り組みは異なる

④地域外の人材などを活用

- ・集落活動センターの推進役として、地域の活性化に向け、住民と一緒に活動する人材を地域 外から導入する。(Uターンを含む)
 - ⇒将来的には、集落活動センターや地域活動・産業活動の担い手としての定住

⑤近隣集落による連携

- ・近隣の集落が互いに助け合い、連携しながら、単独集落で難しくなったコミュニティー活動や共同作業、支え合い活動を地域づくりで取り組む。
- Q1 ⇒まとまりは、絆が深い旧の小学校区単位や旧の町村単位を想定

集落活動センターに取り組む背景!!

◇行政からの視点

- ・人口減少や高齢化に伴う負のスパイラルにより、地域課題が年々、多様化。
- 課題解決のための行政サービスのコストがますます増大!!
- 合併や行政組織の見直しにより、職員数の削減
- ・山間地域では、家や集落の点在により、行政運営が非効率

行政だけでなく、住民力を生かしたサービスの仕組みが必要

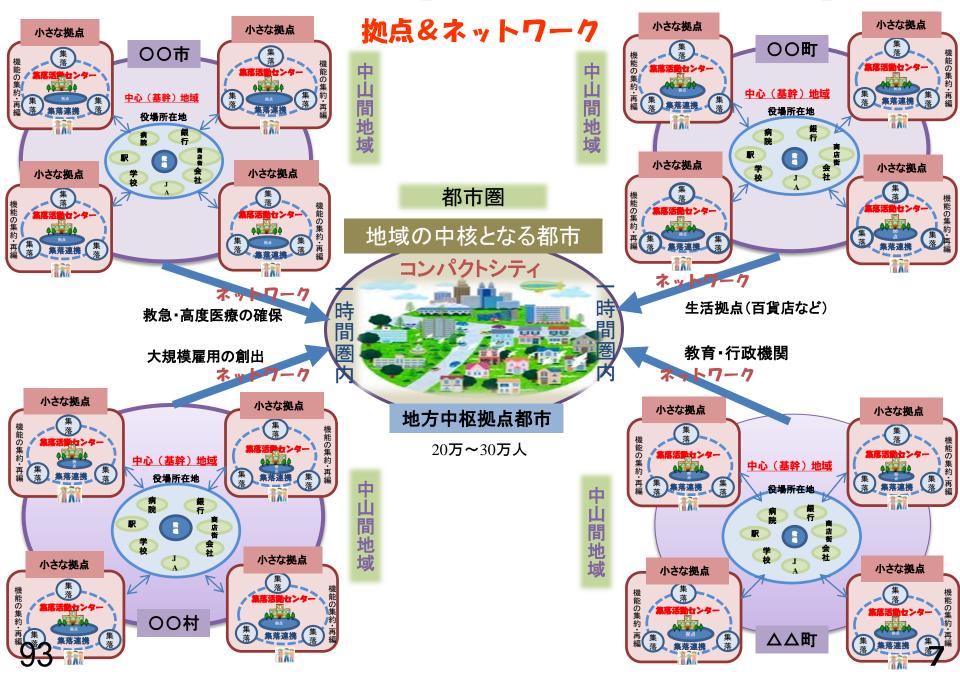
◇地域からの視点

- •集落調査により、それぞれの地域で課題やニーズが異なる実態が具体化、明確化
- 画一的、一律的な行政サービスでは、地域の思いやニーズに十分、対応できない
- ・住民主体の方が、活動が長続きし、将来的に持続できる
- ・従来、地域で行われてきた集落活動の復活の足掛かりとなる

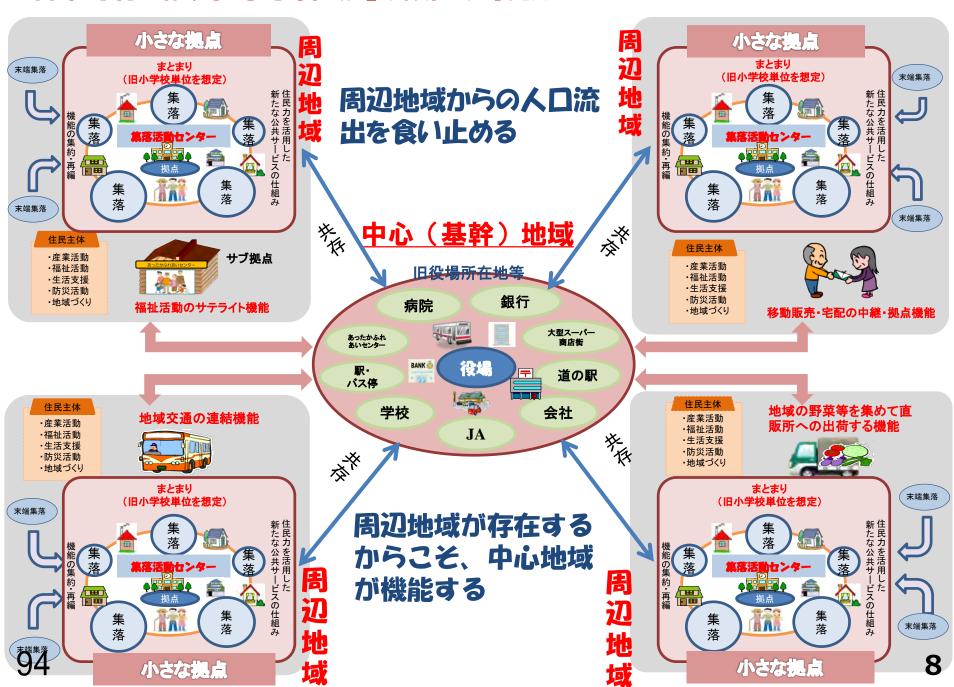
住民主導により、住民の意向を反映した取り組みが必要

92

■国の国土計画のイメージ 【コンパクトシティと小さな拠点】



■各市町村における「小さな拠点」の設置の考え方



落活動センターの開設状況 50 津野町船戸 47 津野町白石 21 いの町越裏門・寺川 2 土佐町石原 61 土佐町松ヶ丘 1 本山町汗見川 44 本山町上関·下関 (平成31年4月~) (平成30年5月~) (平成28年3月~) (平成24年7月~) (令和2年6月~) (平成24年6月~) (平成30年3月~) 56 大豊町立川 18 津野町郷 (令和元年10月~) (平成27年6月~) 15 いの町柳野 23 大川村全域 (平成26年11月~) (平成28年3月~) 52 大豊町穴内 24 梼原町越知面 (令和元年5月~) (平成28年3月~) 43 越知町横畠 (平成30年3月~) 大川村 40 大豊町岩原 56 (平成29年8月~) 21 (23) 49 仁淀川町下名野川 13 梼原町四万川 (平成31年3月~) (平成26年3月~) 40) 42 大豊町東豊永 44) 52 (平成30年2月~) 3 仁淀川町長者 土佐町 本山町 42 17 (平成24年12月~) 32 梼原町東区 ハの町 17 大豊町西峯 (平成29年3月~) 仁淀川町 大豊町 61 (平成27年3月~) 49 46 香美市平山 31 梼原町西区 (平成30年4月~) 46) (平成29年3月~) 35 43 南国市 13 香美市 越知町 35 香美市美良布 佐川町37日高村 (平成29年3月~) 5 梼原町初瀬 14 梼原町 18 馬路村 高知市 (平成25年1月~) 11) 香南市 8 31 32 50 47 (39) 11 安芸市東川 出佐市′ 48 60 (平成25年9月~) 芸西村 津野町 4 梼原町松原 55 26 安芸市 須崎市 (平成25年1月~) 58 高知市梅ノ木 48 馬路村魚梁瀬 (令和元年11月~) (平成31年1月~) 中土佐町 57 日高村能津 22 高知市北七ツ渕 19 四万十町中津川 北川村 54 (令和元年10月~) (平成28年3月~) (平成28年2月~) 安田町 東洋町 20 59 曲野町 四万十町 51 須崎市浦ノ内 14 南国市稲生 (令和元年5月~) (平成26年6月~) 9 四万十市大宮 (平成25年5月~) 奈半利毗 室戸市 45 須崎市安和 8 香南市西川 (平成30年4月~) (平成25年4月~) 28 宿毛市鵜来島 54 東洋町甲浦 16 53 33 (平成28年4月~) (令和元年8月~) 四万十市 30 黒潮町 37 佐川町加茂 26 芸西村全域 (平成29年3月~) (平成28年3月~) 6 27 宿毛市沖の島 36 佐川町黒岩 33 室戸市椎名 宿毛市 7 安田町中山 60 香南市岸本 (平成28年4月~) (平成29年3月~) (平成29年3月~) (平成25年4月~) (令和2年6月~) 16 黒潮町佐賀北部 39 佐川町斗賀野 (平成27年1月~) (平成29年6月~) 59 田野町大野 53 室戸市日南·大平 25 奈半利町全域 安田町大野 (令和元年8月~) (平成28年3月~) 三原村 30 黒潮町蜷川 (令和2年3月~ 28 10 佐川町尾川 (平成28年4月~) (平成25年9月~) 大月町 6 黒潮町北郷 55 中土佐町大野見北 (平成25年3月~) (令和元年10月~) ■令和2年6月28日現在、 38 黒潮町蛎瀬川 34 中土佐町大野見南 (平成29年4月~) (平成29年3月~) 32市町村 61カ所で開設 9 (平成18年4月~) 20 四万十町仁井田 41 土佐清水市下川口 12 三原村全域 (平成29年8月~) (平成26年3月~) (平成28年3月~)

集落活動センターの取り組み事例

(1)集落活動センター「汗見川」 (本山町)

地域住民が主体となって、汗見川ふれあいの郷 清流館を拠点に、集落の連携のよる既存活動 のプラッシュアップや新たな活動の実施をつうじて、次世代の人材を確保し、集落での活動をいつまで も続けられる魅力ある集落を目指す。【平成24年6月17日 開設】

- ●集落の維持
- ●将来の担い手となる人材の確保、育成

集落活動センター 「汗見川」

集落活動の拠点

「汗見川ふれあいの郷 清流館



・薬草の栽培等

★農産物等の生産、販売

- ★鳥獣被害対策
- ・シカ肉の活用

★生活支援サービス

買い物支援など高齢者を地域 で支える仕組み

★安心・安全サポート

見守り活動など高齢者を地域

で支える仕組み 💆 🕲





・充実、強化を図った活動の実施

★特産品づくり・販売

→ 山菜・シカ肉等の活用

新たな交流イベントや体験メニュー

の実施 → 登山ツア一等

👧 新たな特産品づくり

★防災活動

- ・地域防災体制の充実
- ・ヘリポートの活用





仕組みづくりの推進役 【本山町ふるさと応援隊】

連携する6集落(104世帯:216人)

【立野・坂本・屋所・沢ヶ内・瓜生野・七戸】

本山町役場



高知県庁 【支援チーム】

汗見川活性化推進委員会

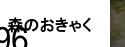
【運営体制】

- ·委員会の部会長、世話役
- ・本山町ふるさと応援隊(高知ふるさと応援隊) ※役場、地域支援企画員が共同でサポート









(2)大宮集落活動センター(四万十市)

センター設立の目的

大宮地域住民が主体となって、集落及び団体同士の連携による新たな活動の実施を通じて、担い手を確保し、集落での活動がいつまでも続けられる魅力ある集落を目指す。 【持続可能な集落づくり】

★⑪ネットワーク拡大

- 地域情報発信
- ふるさとインターンの実施
- 大宮ファン、サポーターづくり

大宮集落活動 センター「みやの里」

★①集落活動サポート

- ・農地、山林、家屋等の共同管理
- ・草刈等の共同作業サポート
- 葬祭事業

★⑪環境保全活動

- 環境美化活動
- 災害時緊急時の体制
- ・自然エネルギーの導入検討

★⑨特産品づくり・販売

- ・地域資源を活用した加工品等の特産品づくり
- ・米のブランド化、販路拡大
- ふるさと便の販売

★8農産物等の生産・販売

- 野菜の庭先集荷、出荷、販売促進
- 契約栽培の実施(学校給食等)
- ・遊休農地、間伐材の活用

★⑦交流・定住サポート

- ・交流イベントの実施
- 体験メニューの実施
- ・住民憩いの場づくり(交流サロン)
- ・滞在、交流の受け入れ体制
- ・おためし滞在、移住交流の推進
- · 若者定住、移住相談、受入窓口
- ・空家調査
- ・婚活イベントの実施





連携する集落(3集落 135世帯:285人) 【大宮上、大宮中、大宮下】

★②生活支援サービス

- ・食料品等の店舗の充実
- ・宅配サービス充実、移動販売の実施
- 生活支援(買い物支援等)



★③安心・安全サポート

- ・見守りの充実
- 小規模多機能施設の充実
- ・福祉サービスの充実

★④健康づくり

・健康づくりの講座やイベント



★⑤防災活動

・防災訓練、地域防災体制の充実・連携

★⑥鳥獸被害対策

•耕作放棄地解消、柵設置等

仕組みづくりの推進役【高知ふるさと応援隊】

97

11

集落活動センターの活動内容

①特産品づくり・販売







地域資源を活かした加工品づくり

②観光交流活動







イベントの実施

居酒屋の経営

③店舗経営

店舗(集落コンビニ)の経営







4配食・配達





99弁当作り・配食サービスの実施

配達サービスの実施

⑤農産物の集出荷の仕組み







住民の庭先きで集荷

コンテナに集約して直販所で販売

⑥集落活動サポート



共同作業の取り組み



得意分野や技術の活用

⑦鳥獸被害対策







⑧安心・安全サポート



見守り・安否確認



101集いの場づくり(サロンの開催)

15

9生活支援サービス





病院・買い物などの移動手段の確保(過疎地有償運送制度等を活用)

10健康づくり活動



研修会の開催



食事会の実施